

● 例えは「現代社会」では

学習指導要領との関連

「現代社会」の内容：現代社会に対する関心を深め、いかに生きるかを主体的に考察することの大切さを自覚させる。自己実現と職業生活に触れながら自己形成の課題を考察させる。雇用、労働問題、社会保障について理解を深めさせる。

主権者としての政治参加や裁判員としての司法参加の「意義」などを考えさせ、社会の有為な形成者としての役割と責任を自覚させること、自らの労働や生活につながるものとして経済社会の動きを理解させることは、この社会において「生きる力」の基礎となるものです。

また、具体的な雇用や労働問題、社会保障などの知識は、キャリアを支える重要なものだと思います。労働関係法についての知識などは、その一例でしょう。非正規雇用の増加など、卒業後生徒たちが活躍する社会では労働者の職業生活を取り巻く環境が大きく変化しています。労働基準法や、各種の社会保障制度などを、一人一人の将来の生活に直接かかわる生きざまのものとして伝えることが大切です。

授業の工夫例

- 授業の中で、選挙公報などを活用して学習を進め、模擬投票を行う。
- 裁判のしくみと裁判員の仕事を理解した上で、模擬裁判を行う。
- 実際に起こったケースをもとに労働現場でトラブルにどう対応すればよいかグループで討議し、考えさせる。
- ハローワークや若者支援のNPO法人などの外部講師を招く。
- 前日のニュースをとり上げ、現代社会の単元と結び付けて解説する。

神奈川県立田奈高等学校での実践事例

現代社会 単元「現代の経済社会と経済活動の在り方」
経済成長や景気の変動を、産業構造の変化やグローバル化などに触れつつ、雇用の変化からとらえ直して理解させる。その上で、若者のフリーター問題を、若者の意識と雇用側の要因の両面から考えさせ、生徒によるディベートを行う。

地理歴史

現代の諸課題を諸資料に基づき、歴史的背景や地理的条件と関連付けて総合的に考察することを通して、歴史的思考力や地理的な見方考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。



公民

人間としての在り方生き方についての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。



数学

事象を数学的に考察し筋道を立てて考え表現する能力や、数学を積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する力を高めることを通して、工夫して生活や学習をしようとする態度を育てる。



外国語

外国語を通じて、互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力やコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことによって、広い視野や国際感覚、国際協調の精神を備えた人材を育成する。



家庭

家族・家庭及び福祉、消費生活、衣食住などの生活に必要な知識と技術を、実験・実習や他者とかかわる力を高める体験活動を通して習得させ、生涯を見通した生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。



情報

情報に関する科学的な見方や考え方を養い、それらが果たす役割や影響を理解させることによって、情報社会で適正な活動を行うために基になる考え方を身に付けさせ、情報社会に参画する態度を育てる。



● 例えは「数学I」では

学習指導要領との関連

学習指導要領解説(数学教育の意義)：将来の学習や生活に数学を積極的に活用できるようにするとともに、知的好奇心、豊かな感性、健全な批判力、直観力、洞察力、論理的な思考力、想像力、根拠強く考え続ける力などの創造性の基礎を養うことや、論拠に基づき自分で判断する力を育成することなどが特に大切である。

数学ではぐくまれる、数、式、図、表、グラフなどを用いて、筋道を立てて説明したり論理的に考えたりする能力は、生活のあらゆる場面で必要な基本的な能力となります。単元ごとに学ぶ意義に触れるとともに、数学を日々の生活と結び付けて理解し有用性を実感する機会として、「数学I」の「課題学習」を活用するなど、工夫が求められています。例えば、新学習指導要領から必修科目の「数学I」に「データの分析」として統計の内容が入り、全員が学ぶことになります。新聞やテレビなどの報道でもグラフ等で状況の説明がされることは多く、統計の内容理解は社会生活を送る上でも欠かすことができません。

授業の工夫例

- 報道で使われるさまざまな統計データを示し、統計の内容理解が仕事の成否を左右することを説明して、導入とする。
- 建築や土木など、実際の職業における三角比の有用性に触れて導入とする。
- 確率の考え方を活用し、仕事上の安全管理の問題を、課題学習として考える。

